

編集後記

今号は巻頭に、19世紀中央アジアを舞台としたマンガ『乙嫁語り』を描いておられる森薫さんにご寄稿いただいたイラスト・エッセーが掲載された豪華な号となった。『乙嫁語り』はわたしも愛読しており、魅力的な登場人物を取り巻く建造物、調度品、服飾品などの緻密な描写に毎回感嘆する。その背後には、おそらく非常に丁寧なリサーチがあるのだろう、実際に何を参考資料にされているのだろう、とかねてから興味津々であった。じつはみんなぱくにも標本資料や図書の調査にいらしていたことを今回のご寄稿で知り、大変嬉しかった。

「現物には力があります」と巻頭に書いてくださっているが、みんなぱくでは大部分の標本資料が「露出展示」されているので、モノがもつ力を間近で感じることができる。刺繍の縫い、木彫りの目のひとつひとつを、ケース越しでなく間近で確かめることができるのである。

『乙嫁語り』を読んで中央アジアに憧れるけれど、なかなか現地には行く機会がないという方々、マンガに登場するような伝統的な衣装や工芸品の現物を、ぜひリニューアル・オープンした中央・北アジア展示場に見にいらしてください！ ワイルドな動物たちも待っています。(山中由里子)

- 表紙：夏の夕暮れどきにウマの群れを集める。
カザフスタン、2007年。撮影・藤本透子

次号の予告

特集

「負」の遺産

月刊みんなぱく 2016年7月号

第40巻第7号通巻第466号 2016年7月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信
編集委員 山中由里子(編集長) 河合洋尚 菅瀬晶子
丹羽典生 南真木人 吉岡乾

デザイン 宮谷一 款 長岡綾子

制作・協力 一般財団法人 千里文化財団

印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」 「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんなぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>

